

## 第 1 回委員会が出されたご意見

| 項目                                   | 主なご意見  | 対応方針   |
|--------------------------------------|--|--|
| ニーズの深掘り                              | モニタリングを行う目的を明確にすべき。<br>(モニタリングすべき) 老朽化とは何かを明確化すべき。                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実証を行う見込みの分野を絞り込んだ上で、ニーズをブレークダウンして提示。</li> </ul> ⇒資料 3 参照 |
|                                      | ニーズのブレークダウンが必要。どのデータがどの頻度でどのくらい必要なのか。  |  |
|                                      | オーバースペックになるのは目的を絞り込めていないからだ。   |  |
|                                      | ニーズの一つとして「経年的な劣化等の進行状況の把握（構造物の年齢把握を含む）」を位置付けていただきたい。                                 |  |
|                                      | ニーズの掘り起こしは国交省から示してもらいたい。   |  |
|                                      | 今回定義されたモニタリングと、地道な打音等の検査を維持管理上どのように位置づけるのか整理すべき。                                     |  |
| シーズ側の情報提供                            | シーズ側のプロジェクトの内容を整理して情報提供いただきたい。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・シーズ側の取組に関する情報提供を実施。</li> </ul> ⇒資料 2-1、2-2、2-3 参照        |
|                                      | センサの長寿命化が必要。   |  |
|                                      | 地方公共団体を視野に入れるなら、安価で長寿命化が期待できる技術を考えるべき。   |  |
|                                      | ハイテクなものばかりではなくローテクな技術も活用していただきたい。  |  |
|                                      | モニタリング機器のコストと交換頻度のバランスを見ることが必要。  |  |
| 他部門の技術で長期間にわたって感知できる国内外の技術を調査してはどうか。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、国内外のセンシング技術、インフラモニタリング技術を調査。</li> </ul> |  |
| モニタリングデータのオープン化                      | データを公開することで、他の人たちを巻き込むことが重要。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリングデータのオープン化の課題や手法等について検討。</li> </ul>                 |
|                                      | 産業として盛り上げるために、データをオープン化し多くの人が利用できるようにすべき。  |  |

|           |   |                                  |
|-----------|---|----------------------------------|
|           | データをオープン化し、広くアクセスできるようにすべき。                                 |                                  |
|           | データは随所に存在するが、それがどういう状況になっているかを確認、活用できる場を構築していただきたい。         |                                  |
| 事例の蓄積     | 構造的に単純な構造物が多いので、代表的な構造物に適用することで他のものを類推できるような事例蓄積を行っていただきたい。 | ・実証現場の抽出にあたって配慮。<br>⇒資料4参照       |
| 今後の進め方    | 産業界からの参加が少ない。いろいろな分野の方が集まれる場が欲しい。                           | ・今後の検討体制について検討。                  |
| 事業展開・普及促進 | 施設を施工した者が一番状況をわかっており、モニタリングの維持管理も一体で取り組ませるのがよいのでは。          | ・モニタリング技術の導入方法、支援体制等について検討。      |
|           | モニタリングデータを一元的に集積・検証し、長期的に維持管理を担う事業（市場）を育てるようなやり方もあるのではないか。  |                                  |
|           | 現場導入には「いかに目視点検を省力化できるか」という観点で整理が出来ると管理者側も受け入れやすいのではないか。     |                                  |
|           | 特に市町村において活用技術の判断基準や、支援組織等が必要になると思われる。                       |                                  |
| 海外展開      | 技術の国際展開も視野に入れて検討すべき。  | ・海外事例を調査した上で、技術、事業の国際展開の可能性等を検討。 |
|           | 民間事業者には海外市場にも視野を向けてもらおうと参入を促せるのではないか。                       |                                  |

※イタリックは、追加意見。